

解析学・講義資料—べき級数の項別微分可能性とその収束半径

(担当) 緒方秀教 (e-mail)ogata@im.uec.ac.jp

2015年11月16日(月)

**定理 1** 区間  $I$  における関数列  $f_n(x)$  について、つぎを仮定する：

1.  $f_n(x)$  は  $I$  で  $C^1$  級である (微分可能かつ  $f'(x)$  は連続である) .
2.  $I$  上のある関数  $g(x)$  が存在して、 $I$  内の任意の有界閉区間  $[a, b]$  において  $f'_n(x)$  は  $[a, b]$  上で  $g(x)$  に一様収束する.
3. ある  $c \in I$  に対し極限  $\lim_{n \rightarrow \infty} f_n(c)$  が存在する.

このとき、

- (i).  $I$  上のある関数  $f(x)$  が存在して、 $I$  内の任意の有界閉区間  $[a, b]$  において  $f_n(x)$  は  $f(x)$  へ一様収束する.
- (ii). 各  $x \in I$  に対し、 $\lim_{n \rightarrow \infty} f'_n(x) = f'(x)$ .

□

**証明** 有界閉区間  $[a, b](\ni c)$  を任意にとる. このとき、 $x \in [a, b]$  について

$$f_n(x) = \int_c^x f'_n(y) dy + f_n(c) \quad (1)$$

が成り立つ.  $f'_n(x) \rightarrow g(x)$  ( $[a, b]$  上一様収束) であるから、式 (1) 右辺は  $n \rightarrow \infty$  で  $\int_c^x g(y) dy + \gamma$  ( $\gamma = \lim_{n \rightarrow \infty} f_n(c)$ ) に収束する. よって、 $f_n(x)$  の  $n \rightarrow \infty$  における極限も存在し、 $f(x) = \lim_{n \rightarrow \infty} f_n(x)$  (各点収束) とおくと、

$$f(x) = \int_c^x g(y) dy + \gamma \quad (2)$$

が成り立つ. (1) と (2) の差をとると、

$$f_n(x) - f(x) = \int_c^x \{f'_n(y) - g(y)\} dy + f_n(c) - \gamma. \quad (3)$$

$\epsilon > 0$  を任意にとるとある  $n_0 \in \mathbb{N}$  が存在して、

$$\begin{aligned} |f'_n(y) - g(y)| &< \frac{\epsilon}{2(b-a)} \quad (\forall y \in [a, b], \forall n \geq n_0), \\ |f_n(c) - \gamma| &< \frac{\epsilon}{2} \quad (\forall n \geq n_0) \end{aligned}$$

が成り立つ. よって、(3) より、

$$|f_n(x) - f(x)| \leq (b-a) \cdot \frac{\epsilon}{2(b-a)} + \frac{\epsilon}{2} = \frac{\epsilon}{2} + \frac{\epsilon}{2} = \epsilon \quad (\forall n \geq n_0)$$

が成り立つ.  $x \in [a, b]$  は任意であったから、これは  $f_n(x)$  が  $[a, b]$  上  $f(x)$  に一様収束することを示す. そして、(2) を  $x$  について微分すれば、 $f'(x) = g(x) = \lim_{n \rightarrow \infty} f'_n(x)$  がわかる. ■

**定理 2** べき級数  $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$  が収束半径  $R$  を持つならば、それを項別微分して得られるべき級数

$\sum_{n=1}^{\infty} n a_n x^{n-1}$  も収束半径  $R$  を持ち、

$$\left\{ \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n \right\}' = \sum_{n=0}^{\infty} \{a_n x^n\}' = \sum_{n=1}^{\infty} n a_n x^{n-1} \quad (\forall x \in (-R, R)).$$

□

**証明** べき級数  $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$  とその項別積分  $\sum_{n=0}^{\infty} \frac{a_n}{n+1} x^{n+1}$  の収束半径が等しいことの証明における議論をべき級数  $\sum_{n=1}^{\infty} n a_n x^{n-1} = \sum_{n=0}^{\infty} (n+1) a_{n+1} x^n$  と  $\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n = \sum_{n=-1}^{\infty} \frac{(n+1) a_{n+1}}{n+1} x^{n+1}$  に適用すれば、これらのべき級数の収束半径が等しいことがわかる。

関数列  $f_N(x) = \sum_{n=0}^N a_n x^n$  は定理 1 の仮定 1, 2 を満たす。そして、 $c \in (-R, R)$  を任意にとれば、 $\lim_{N \rightarrow \infty} f_N(c) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n c^n$  は収束する。したがって、定理 1 より任意の  $x \in (-R, R)$  に対して

$$\left\{ \lim_{N \rightarrow \infty} f_N(x) \right\}' = \lim_{N \rightarrow \infty} f_N'(x), \text{ すなわち,}$$

$$\begin{aligned} \left\{ \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n \right\}' &= \left\{ \lim_{N \rightarrow \infty} \sum_{n=0}^N a_n x^n \right\}' = \lim_{N \rightarrow \infty} \left\{ \sum_{n=0}^N a_n x^n \right\}' \\ &= \lim_{N \rightarrow \infty} \sum_{n=0}^N \{a_n x^n\}' = \lim_{N \rightarrow \infty} \sum_{n=1}^N n a_n x^{n-1} = \sum_{n=1}^{\infty} n a_n x^{n-1} \end{aligned}$$

が成立する。 ■